

村余川知事
山本 新也

2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定しました。この日本で世界中の人々と感動を共有できることが、今からとても楽しみです。そして、県にとっても、2020年に世界中から集まってくる人々に、神奈川の先進的な取り組みを発信するという目標ができました。

世界の人々と感動を共有しましょう

オリンピック・パラリンピックは、人々に夢と希望を、そして、社会に活力を与えてくれます。約半世紀前の前回の東京オリンピックでは、日本中が一つになって熱中し、このオリンピックを契機として、国の姿も大きく変わっていきました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでも、世界の人たちが国境を超えて一つになり、特に、未来を担う子どもたちの心に熱い感動を残すことができるよう、首都圏が一丸となって大会を盛り上げたいと考えています。

県にとっても「2020年」という目標ができました

私は、県にとっても「2020年」という目標ができたと感じています。2020年、世界中からこの日本にたくさんの人々が集まってきます。それと同時に世界中のメディアがこの日本にやってきて、東日本大震災から9年たった2020年の日本の姿を全世界に向けて発信します。そのときに、どんな神奈川をアピールできるか、それを今から考えていきたいと思っています。

「神奈川モデル」を世界に発信できるように

今、県では、「ヘルスケア・ニューフロンティア」の取り組みに全力を注いでいます。これは、超高齢社会を乗り切るため、最先端医療や最新技術の追求というアプローチと、食生活の見直しや運動により「未病」を治すというアプローチ、この二つを融合することで、健康寿命日本一と新たな市場・産業の創出を目指す取り組みです。

また、県民生活や経済活動を支えるエネルギーを、原子力や火力といった集中型電源に極力頼らず、地域内で確保していくために、太陽光発電をはじめとする分散型電源の導入促進を進めています。今後、次世代の薄膜太陽電池や水素エネルギーの普及拡大などにより、地域でエネルギーをつくり、蓄え、賢く使う「独立型電力システム」の実現に取り組んでいきます。

こうした先進的な政策を2020年までにはなんとしても形にして、世界中のメディアに、「神奈川モデル」としてレポートしてもらいたいと思っています。

また、横浜、鎌倉、箱根に次ぐ第四の観光の核づくりにも取り組んでいます。オリンピックのために世界中から集まってくるお客様が、みんな足を運びたいような魅力あふれる国際的観光地をぜひ実現していきたいと思えます。

2020年という目標に向かって、県の重点政策をどうやって実現させるか今からしっかりと議論し、取り組みをどんどん加速させていきます。

[このページの先頭へもどる](#)

[県のたよりトップページへもどる](#)

神奈川県 県民局 ぐらし県民部 広報県民課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1
[電話]045(210)3662[ファックス]045(210)8834
[県のたよりに関する問い合わせフォーム](#)

